

急ぎ過ぎだよ 人類は。

ゆるやかなネットワークを目指す

ITより
逢いてエ

雑報 縄文

いろは考えがあふく面白い
いろは人がいるが楽しい

No. 679

2023年5月

編集・発行 鈴木厚正

〒266-0005 千葉県緑区菅田町2-21-359

T&F 043-291-2917

も・く・じ

- 『海をゆくイタリヤ』(後半) 2
- 端午の節供に 5
- 人口減少(続き3) 6
- 睡然 呆然 凜然 舟田相の米義会 説9
- 「日本共産党の百年」ほか 10
- お便利さ 14
- 山仕事(4月、大平) 19
- 嵯峨喫 伊豆の旅 22
- け・い・じ・ぱ・ん 26



泉ゆきを『心はいつも山頭火』
(日本習字普及協会)

(いまなら、3月までの方)
19名が不明

月 日 現在の
会員数 名

この見本誌をみて新たに
「読んでみようか」という方は、
年会費 4,000円を
郵便局で 10540-52760981
(鈴木厚正の口座)
へ 振り込んで下さい。

題 字 故 佐村隆英和尚 (千葉県長柄町本光寺住職)
カ ッ ト 故 泉ゆきをさん (にっぽん箱絵の会会長)

印刷機 リソグラフ RZ 330

※この号の切手は、未来に残したい文化①

山仕事(4月、大平)

例年4月下旬は、正士さん最大のイベント「お茶摘みパーティ」の時期だった。
しかし今年、正士さんは悩んだ。体調に不安があったからだ。

実施するか、しないか。実施するとすれば規模をどのくらいにするか。会員制にするか、しないか。考之乃ぐねて猫の手メンバーも意見を求められた。

思案の末、4月9日に実施することとなった。基本は少人数、会費無し、食事は参加者の持ち寄りと当日の手作り。そして演奏会はしないというものだ。

苦心の挨拶文は、昨年6月、思いがけずすい臓癌と肝への転移で余命6ヵ月と宣告されたこと。従って「お茶摘みパーティ」はとりやめること。それでも山菜採りは自由にしてもらい、来た人は拒まず、というものだった。

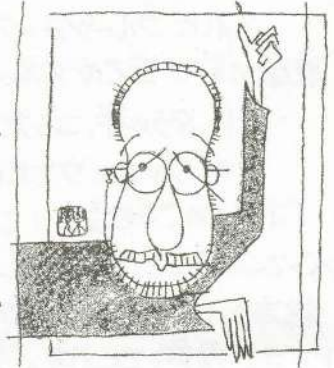
4月18日(木、くも)。列車の窓から見える空はうすぼんやりとして、視界は3kmほど。どうやら黄砂のせいらしい。

敷地駅で、正士、久米、若林、山本真由美さんに迎えられる。全員で買物に。内輪の集まりといっても、それなりに買物は多くなる。

遅れて見えた竹中さん持参の道明寺?をいただきながら打ち合わせ。正士さんによると参加者は40名ほど。従来は謝金を用意して招いた演奏者だが、今回は尺八と篠笛、チェロと二組がボランティアで来てくれるという。

駐車場をどうするかが議論となった。40名というと20台近くになりそうだ。正士さんちの周辺は演奏者などにおけておき、いつもの分校跡を使わせようこととなった。

厨房では、康江、久米さんが中心となって調理が始まる。オホーツク佐呂間町の船木航二さん(右)から赤穂浪士の数ほどのとてたてホタテ貝が届き、式根島の池田清江さんからは、手作りのムロアジのたたき(すり身)が送られてきた。いつもの内田美智子さんのお饅頭には「正士さん、皆さん、こんにちは。花の季節になりました。隣りの家ではライラックなど花々が満開です。両隣りはいい人ぞ揃がないので、わが庭のように愛でることが出来ます。



そちらがお天気ぞ、けががありませんように」とのお便りが添えられていた。

以前、何度も出かけて草刈りなどした水屋(みさくぼ)町大沢の「天空の星」、別所ナカエさんが亡くなったとのこともきいた。

ゆの刺身(ホタテ、サケ、エビ、タチウオ)、アスパラのゆずこしょう炒め、春野菜炒め、タケノコとシーチキン炒め、天ぷら(タラの芽、ウド)、ノビルの酢みそ和え、ワラビのお浸しに正士さんの手打ちそばを久米さんのかじしとだしていただく。

4月9日(金)、快晴。前夜の雨も上がり、ピッカピカの空だ。

早々に青山さんがイチゴを持って見え、いったん家に戻る。

朝食後、各自支度にかかる。東江、久米さんはご馳走作り、原田、山崎さんはホタテの炙り焼き用にたき火で熾火づくり。餅をつく石臼に水を張り八重格の花を浮かべ、火消しつばに花を生けたのは、どなただろう。ぼくは道路際に机をだし、受け付けの用意。まもなく、一緒に受け付けを仰せつかったバラさん(柳原幸雄さん)が、菓子折持参でやってきた。受け付けといっても、例年のように会費やお茶の好みと大きく必要がなく、閑職である。

イチゴ持参の深谷さんなど、次々とやってくる。竹中さんが駐車場へ誘う案内板をつくり、若林さんが車の整理に当たる。

水窪の昔乙女がムン揃ってご馳走持参でやってきた。中谷さんは久しぶりだ。

今回、正士さんはそば打ちをせず終始箸のまん中においてもらう。幸い、そば打ち名人の松本芳廣さんが道具持参で来てくれた。

正士さんが理争をしているボランティアグループ「元氣里山」の二人が、無農薬のお茶(昨年産)1袋1000円を半額で販売したいとやってきた。(2袋買いました)

山菜採りから戻る人々を待って、11:40、正士さんが開会挨拶。「昨年6月、余命6ヵ月と言われたが、すでに9ヵ月経過。皆さんの協力で今日、こうして開くことができました」

緑側の前にご馳走が並ぶ。水窪からが主体のその中身は、

筍の木の芽和之、筍の煮物、ワラビのお浸し、キャラキ、フキと厚揚げのマリネ、こんにゃくのおかゆ、キャブツのコーヒードー、山菜のおこめ、竹の子ずし、しめサバ。

それにフルーツヨーグルト、ミョウガタケなどが加わる。

物置の前で昔乙女4名が一列に並んで天ぷらを揚げる。天ぷらのタネは、

ラド、タラの芽、コシアブラ、ハリギリ、ジャガタ(小粒在来種のバインゴ)、ウコギ、タケノコ、フキ、ジャコとワサビの花……と、水窪の里山に居るようだ。

「ホテルのご馳走より、こうして青空の下、箸で楽しむのがいい。正士さんがその機会をつくってくれた」と、守屋さん。

松本さんが打ったそばが「おろしそば」となると供され、そばが終わると挽きたてのコヒーまで振舞ってくれた。デザートにイチゴや法多山(はたご)の名物団子なども。

ひとしきり食事が終わると、予定になかった演奏会に移る。

ヒヤラの林の下で尺八と篠^の笛の演奏が始まった。曲目は、映画「タイタニック」のテーマを皮切りに、童謡の「春よ来い」から沖縄の「花」など多彩だ。尺八が先導し篠笛が引きつぐ。かと思ふと二人の合奏も。尺八も3管ほどとり替へながら演奏する。この頃、お孫さんの具合が悪い守屋さんがひと足早く帰宅。

続いて、座敷でのチェロの演奏に移る。パッパからブリトーン、おしまいはカサリスの「鳥の歌」まで。お母さんも聴き入っていた。

晴れた空、新緑の中でのパーティ。いつもと違った、心を洗われるような宴だった。正士さんを愛する人たちが集まって醸し出したのだ。きっと、正士さんの体調によい効果をもたらしてくれたらう。

片付けが終り、散会。

その後、シェフの杉浦さん一家、下田市役所の土屋さんが千葉ちゃん(野口弓江さん)を伴ってやって来る。

20名ほどが囲炉裏を囲み、教談。杉浦さんおもたせを主として、

(夕) 木タテの炭火焼、茎ワカ、ホタルイカ、タイの子煮、セリの白浸しに昼の残りの竹の子ごはん、天ぷらなど。

この夜、康江さんと千葉ちゃんは久米さんのお宅へ。ぼくは前夜に続き母屋で寢袋にくるまる。

4月20日(土)、晴のち曇り。原田さんが大量の竹の子の処理。山崎さんは5月13日、上大岡での樹木整理の用意。

(昏) カレーライスにグリーンサラダなどおいたとき、救地駅で正士、久米、土屋、千葉ちゃんに見送られて帰宅。